

1. 管内の生態 → 概ね平年より2週間程度早い予想です。

今年は3月から気温の高い日が続いていることから、りんごの生態は平年より2週間程度早まっています。気象庁発表の1か月予報では、今後も気温の高い日が続くと予想されていることから、開花は平年よりかなり早まると考えられます。

◆ふじの生態(4月4日現在)

()は予想です。

観測地点	発芽日	展葉日	展葉1週間後	開花日	
平場	薬師堂・乳井・宿川原	3/23	4/1	(4/8~)	(4/21)
	清水森・門外・森山	3/26	4/2	(4/9~)	(4/23)
中間	松木平・狼森・原ヶ平・小栗山	3/27	4/4	(4/10~)	(4/26)
	三ツ目内・長峰・苦木	3/29	(4/5)	(4/11~)	(4/28)
山手	大和沢・一野渡・居士	3/30	(4/6)	(4/12~)	(4/29)
	唐牛・古懸・駒木	3/31	(4/7)	(4/13~)	(4/30)
	駒の台・高野新田	(4/2)	(4/9)	(4/15~)	(5/2)



展葉1週間頃散布適期(葉が4~5枚展葉したとき)

2. 薬剤散布について → 園地の生態を確認し、散布を行ないましょう!

- ・展葉1週間後の薬剤散布は、早いところで4月8日頃からとなりそうです。
- ・園地の条件により生態のばらつきがあることから、園地を確認し散布タイミングを逃さないようにしましょう(上記写真を参照)。
- ・また、降雨前散布、散布量を守ることはもちろんですが、前回から10日以内に散布するようにしましょう。

◆平場

展葉1週間後頃 4月8日頃~
開花直前 4月18日頃~

◆中間

展葉1週間後頃 4月10日頃~
開花直前 4月20日頃~

◆山手

展葉1週間後頃 4月12日頃~
開花直前 4月22日頃~

時期	対象病害虫	基準薬剤	倍数	1000L調合量	注意点
第1回目 展葉1週間後	モニリア病 黒星病 腐らん病 リンゴハダニ ハマキムシ類	精製マシン油(乳) ダズバン(DF) アプロード(F) ベフラン(液)	200倍 3,000倍 1,000倍 1,000倍	5L 334g(2袋) 1L(2本) 1L(2本)	黒星病初期防除の重要な時期です。小さい葉が1枚でも展葉したら1週間以内、降雨前散布となります。
第2回目 開花直前	モニリア病 黒星病 ミダレカクモンハマキ	カナメ(F) バイオマックス(DF)	4,000倍 2,000倍	250ml(1本) 500g(1袋)	開花直前までに低温等により散布間隔が開く場合はベフラン1,000倍の特別散布を実施する。
第3回目 落花直後	モニリア病 黒星病 ミダレカクモンハマキ リンゴハダニ	ミギワ(F) チオノック(F) バイオマックス(DF)	4,000倍 500倍 2,000倍	250ml(2本) 2L(1本) 500g(1袋)	

3. 防霜対策

生育ステージ	発芽直前	発芽期	展葉初期	花蕾露出期	花蕾着色期	開花始	満開期	落花期
安全限界温度	-4.6	-2.1	-2.1	-2.1	-2.0	-1.5	-1.5	-1.7

・燃焼法

- (1) 午後7時の気温が6℃以下、晴天無風のときに降霜の危険があるため、燃焼資材着火時点温度は、危険温度の1℃高い時点で着火する。
- (2) 著しい低温時は、防霜ファンと燃焼資材を併用する。

◆SS散布資材◆

品目	グリーンステム	アイスバリア	霜ガード	グットパートナー
規格	500g	1, 1kg(1L)	10kg	1L
使用量	1,000倍 10a/300L	333倍 10a/300L	100倍 10a/300L	1,000倍
特徴	農薬混用可	農薬混用可	マシン油と混用不可	霜ガード用固着剤

※降霜注意日前(2~3日前)に散布しましょう

◆燃焼資材一覧◆

資材名	使い方	10a使用量
霜カット	おが屑:灯油=2:1(1個2kg)	50個
防霜ロック	石綿+灯油	20個
A重油	1缶1リットル+少量のガソリン	30缶
防霜ファン	始動温度を2℃に設定する。	-

4. マメコバチについて

- (1) マメコバチの巣箱は1群当たり2~6箱で、60~80m間隔に設置しましょう。※低温時には行動範囲が狭くなります。
- (2) 鳥の食害を防ぐために防鳥網を張りましょう。
- (3) 防鳥網の内側に土取場として穴を掘り、土が乾いたら夜または早朝に水を入れて湿らせましょう。一度は交換しましょう。